

おずな



新浦安

分会

No.41

2022・

4・26

発行責任者
坂本暢雄
編集・教宣

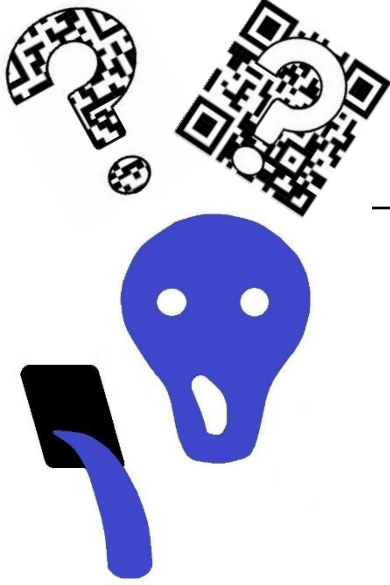
きゅーあーる

くまどく?

ダイヤ改正が行われるたびに目玉的なのをアピールしていましたが最近はその言ったものが影を潜めている気がします。「売り」にするものが無く使い勝手が悪くなるだけでなく配布する名刺版の時刻表まで無くなりました。

ダイヤ改正以来、窓口ではお客さまに事情を説明し、頭を下げる光景が繰り広げられています。

紙の時刻表を求めてくるのは主にスマホの操作が苦手な年配のお客様です。



スマホから時刻表の情報が得られますよ、こちらのQRコードから・・・などと言われ、あきらめ顔でその場から立ち去る姿を見送るのは辛いです。

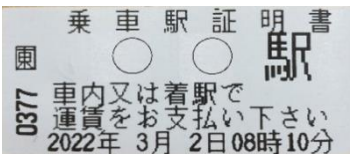
日本は高齢化社会でありJRも当然把握しているはずですが最近の施策はいわゆる交通弱者に優しいとは言えないものを感じます。

運行ダイヤなどの配布も

限定的となりました。駅では当該線区のみとなりましたが二路線が乗入れる駅などは当然両方が必要ですが「京葉線の駅ですから」という認識しかせず、要求してやっとなという状態です。タブレットを支給しているのだから

新しいの意味するものは...

前号でも触れましたが新機能を搭載した新型精算機が導入されました。無人駅を増やし、スイカなどICカードをスマホに取り込ませる施策を進めています。機器の対応は遅く、そのシワ寄せはお客様へ向けられています。



らそれを使えとのことですが見慣れた者には乗継ぎなど運行ダイヤの方が分かりやすく早い。ダイヤが乱れた時などは従来の運行ダイヤじゃないと状況が把握しきれず特に本数の少ない武蔵野線などは必須アイテムですがそういったことも構いなしにペーパーレス化が進められています。「次の列車は何時ころ?」と尋ねられても、「さあ、分かりません」と答えるのがプロの仕事でしょうか?

乗車駅証明書を判読でき、スマホへのチャージなども対応する機能は見切り発車的な先行施策追いつこうとする感があります。今までの新機



能は現場社員の負担軽減やお客さまにも使い勝手が良くなったりしていた面もありましたが、今後導入される機器類はいかに社員を減らせるか、窓口の無人化を進められるかという事に主眼が置かれています。お客さまは自分で機器を操作することを強いられ、今以上に面倒な手間を押し付けられることとなります。

日中だけでなく早朝時間帯も窓口を閉める駅が増えていますが、駅は危険が付きまとう施設でもあります。

当たり前のことですが何かあった時に「命を守る」のは自分で判断し行動できる生身の人間です。機械は察知できても解決はできません。

◎次回非番者集会
5月9日(月)

千葉地本
HP開設!

